

令和元年度 第7回福部地域振興会議 次第

日 時 令和2年1月27日(月)
午後4時00分～
場 所 福部町総合支所 2階 第1会議室

1 開 会

2 議 題

- (1) 今年度の視察結果について 資料1

- (2) コミュニティーセンターの複合化工事について 資料2

- (3) 地域内情報伝達整備事業について 資料3

- (4) 来年度の視察先について 資料4

3 その他

4 閉 会

次回開催日程:2月19日(水) 9時～

福部地域振興会議参加者一覧

	氏 名	所 属 等	備考
福部地域振興会議委員	南部 敏	福部町区長会長	会長
	上山 弘子	元鳥取県教育委員長	副会長
	坪内 悟	福部まちづくり協議会長	
	宇山 英俊	福部町自主防災会連合会長	
	小谷 孝文	福部地区民生児童委員協議会長	
	岸本 正枝	鳥取市公平委員	
	濱田 香	鳥取市農業委員会会長	
	西尾 祥幸	若手農業生産者代表	
	岩崎 幸子	公募（福部アイデア館管理運営協議会長）	
	谷岡 陽一	公募（福部地区公民館長）	
	加藤 美幸	公募（鳥取県漁協福部支部海女）	
中川 玄洋	公募（特非 学生人材バンク代表理事）		
事務局（福部町総合支所）	平戸 伊寿美	支所長	
	大島 義典	副支所長兼地域振興課長	
	森 昌彦	産業建設課長	
	湯谷 順子	市民福祉課長	
	河本 秀樹	地域振興課課長補佐	

1. 道の駅気楽里

【長尾社長より説明】

道の駅を作るきっかけは、平成21年に全国街道交流会議鳥取大会が開催され、そのとき国交省の道路審議会の座長をされていた筑波大学の石田東生先生をご案内する中で、「このあたりで道の駅を声を上げたらどうだ」と言われたのが最初である。その際、地域の要望をまとめ、順番だって持ち上げていただければ、国交省も協力支援をしますと言われたのが7年前である。

道の駅を作るにあたり、どのようにまとめていこうかと考えていたところ、私が鳥取西商工会の会長をしていたため、商工業者の高齢化、廃業が進む中、道の駅を拠点として、物販、休憩、トイレだけでなく、地方創生の小さな拠点構想が国交省の道の駅の第2ステージの使命であった。西商工会が主導で道の駅を進めることとし、鳥取市西地域のグランドデザイン構想計画書の作成から着手した。市町村合併後、課題となっているのが、地域の商工業者、あるいは、地域振興を誰がやっていくのかということが常に出ていた。

行政の文書には、綺麗なことが書かれているが、鳥取市がやるということは全く書いていない。どの会議でも、誰がけん引役をするのかということが話題に出た。西地域のグランドデザインを作成する中で、道の駅気楽里がけん引役をすることとしたが、次に原資の問題が出てきた。道の駅気楽里で出る利益をそれに充て、地域振興をする人も気楽里で採用することを計画書に落とし込み、3本柱を、①道の駅の設立、及び設立に向けた要望、②道の駅の運営会社の立ち上げ、③地域振興、観光振興とした。

一番最初に、気楽里の前身となる「西いなば地域振興協議会」を立ち上げ、道の駅や運営会社の設立準備、地域振興策の検討などを行った。西いなば地域振興協議会については、運営会社を立ち上げ、道の駅がオープンしたら発展的に解散をして、道の駅に引き継ぐということで、平成31年3月に解散した。

いろいろな道の駅の視察にも行った。これまで5年にわたり、道の駅の機能について地域の声をまとめているので、行政に道の駅の設計等には、西いなば振興協議会の入れて欲しいと要望した。

設計のヒアリング段階で2回会議に参加させてもらったが、それ以降の基本設計、実施設計には参加させてもらえなかった。このスペースは体験交流室で、空いているときに会議に使用している。面積は小さくなっているが特産品開発の部屋など、要望を叶えてもらっている。

【施設概要について、江原部長より説明。】

別紙「令和元年度 福部地域振興会議 道の駅視察 事前質問に対する回答」参照

【質疑応答】

Q：総事業費18.1億円は市の補助金ですか？

A：用地は市が準備、建設費については、国、県、市が機能分担割合に応じて負担。運営費も機能に応じて県や市が負担している。

Q：駐車場台数は入込客数と併せて試算していると思うが、ピーク時はオーバーしていないか？

A：オーバーしている。実施設計の段階で、我々が要望していたものと大きく違う。設計会社は全国の道の駅を参考に算出したと言っていた。一般車を増やすよう要望したが、かなわなかった。7、8月は、下りは瑞穂インターまで渋滞し、警察から御叱りを受けた。今でもイベントをすると駐車場が足りない。

道の駅視察 議事録

Q：来場客数54万人は達成できそうですね？

A：はい。54万人も12カ月のシュミレーションから出した数字だが、オープンが遅れたたにもかかわらず達成できそうである。一方、事業収支のシュミレーションが大きく狂ってしまった。予想以上に入込客が多く、スタッフが足りず、お客さんに迷惑をかけてしまった。

Q：商品の仕入れはどのように行っているか。

A：道の駅といえば、直売をイメージされると思う。ところが、西地域は小規模な農家がほとんどで、専業農家は数えるほどしかない。できるだけ生産者と直接取引したいが、出荷者にはスペースを埋めることが出来なかったら問屋を入れると伝えている。野菜が不足するのは目に見えていたので、中央青果や協同青果からダイレクトに入れるように交渉したが、問屋を通す仕組みになっており、商品が欠品した場合は、そういう方々の協力してもらっている。ところがどうしても、一次流通、二次流通を挟むので価格が高くなる。そういう訳で、10月から生産者から直接買い取ってくる集荷システムを作り始めたところである。

出荷者協議会の中でJAいなばさんを頼りにしようかと言われたが、JAからは断られた。中央青果からも仕入れるよう、契約したところ。

Q：魚はどこから仕入れているのか？

A：地物に夏泊漁港があるので、そこに出品してもらえないかと交渉したが、今は県漁連の傘下なので、直接県漁連に交渉するように言われた。しかし、県漁連からはいい返事がもらえなかったので、賀露の中村商店に入ってもらっている。

Q：地方創生の小さな拠点ということで、ここの特色ある施設として体験加工室、農産加工室、水産加工室、地域交流室があるが、これの計画段階での考え方、実績について教えて欲しい。

A：気高3町でも女性グループでいろんな食べ物を作ったり、サークル活動で商品化したものがある。7～8人のグループで特産品のしょうがなどを使った商品を作ったりしている。道の駅気楽里で西地域の特産品として売れるものを探したとき、上げれるものが少なかった。道の駅で販売等、全ての免許申請はするので、水産加工室、農産加工室を要望しよう。そこでサークル活動の一環として、商品を作ってもらい、起業する下地を作ったり。あるいは、空き家を再生するグループがそこでやるとか。そのようなビジネスチャンスの提供の場を作りたかった。

今は、主に土日にグループが農産加工室を使用している。この地域で取れる農産品、水産品を道の駅で加工し、弁当やおこわにして店頭で並べられる。お客さんはそういうものを目指してくるので、すぐに売り切れる。

女性グループが空き家を活用して、チャレンジショップや起業をするような手助けを、ここでやりたい。

Q：食堂の売りは何ですか？

A：鯖定食と、しょうがを使った料理です。ようやく落ち着いてきたので、今日、オープンしてから初めてレストランの委員会を開催し、課題の洗い出しやお客さまアンケートの分析をする。

Q：席数はどのくらいか？

A：100席程度である。

Q：回転率は？

A：1回転すればよい方。今、売り上げのほとんどが昼である。レストランの場合、フードと人件費の割

合が売り上げの50%以下でなければ利益が出ない。今は人件費率が非常に高く、利益が出ていない。本日の会議では、今のメニューのままでよいのか、アンケートに対する対応策などを検討する。7、8月のレストランは、1～1.5時間待ちであったため、スタッフを増員したら人件費率が増大してしまった。

Q：東の玄関として、国府も交えて東商工会からそういった声が出ないかと思っているが。

A：商工会は、会員数が多い町から会長が出やすい。西商工会でも道の駅を作る際、3町がそれぞれの考えばかり主張すると収集がつかないので、ゴールに向かって一致団結することが大切と言ってきた。我々の年代になってくると、孫の時代にどういふ西地域をプレゼントするかということを考えるのが西商工会の役員の仕事だと、集まるたびに言っている。

いろいろな考え方があるので、町や村をまとめることは大変だが、ゴールをしっかりと見据えて、壁と取り除いて、みんなが一つになって進まないといけない。

一つになろうとすると、①利害の壁（地域）、②想いの壁（10人いれば、10人想いが違う）、③地形の壁（山部や海部地域での考えの違い）、④行政の壁（制度の壁）が出てくる。福部の隣は岩美町だが、必ず関係してくる。予算は別なのでそこで、行政の壁が出てくる。

移住定住、地域振興、商業振興を行う上で、この4つの壁が必ず出てくる。ゴールをしっかりと見据え、合意を得ながら進め、行政と地域の強力な連携が必要である。

Q：この場所は、集落に近いが、集落との交渉はどうしたのか？

A：場所の選定、集落との交渉は行政が行った。オープン後、夜間の照明について近隣から苦情を受けている。近隣の3町内会に意見をまとめてもらい、話し合いを行うこととしている。建設に関する交渉は、全て行政が行った。

2. 道の駅きなんせ岩美

【飯野課長より説明】

施設規模については、記載のとおりである。H27年7月20日にオープンした。駅舎は岩美町、駐車場、トイレは国が整備した。駐車台数は75台だが、ピーク時は全く足りない。

道の駅を作ることになったきっかけは、記載のとおりだが、地元の人に利用してもらうことを前提としている。建物は旧トスクを改築した。災害時の避難場所にも指定しており、太陽光発電や蓄電池、マンホールトイレが整備してある。

レストランの業者は公募。水産関係はトスクとマルワ渡辺水産の2社が入っており、農産物はJAが入っている。物販部門の運営はJAにお願いしている。

運営については、町内の5団体、岩美町、テナント、町民が出資し、(株)いわみ道の駅を立ち上げ（資本金1,900万円）、そこが運営している。社員は5名で、当初2年はJAからも派遣してもらっていた。岩美町が駅長分の人件費を補助しているが、昨年度から経営状況を見て、補助額を決めている。

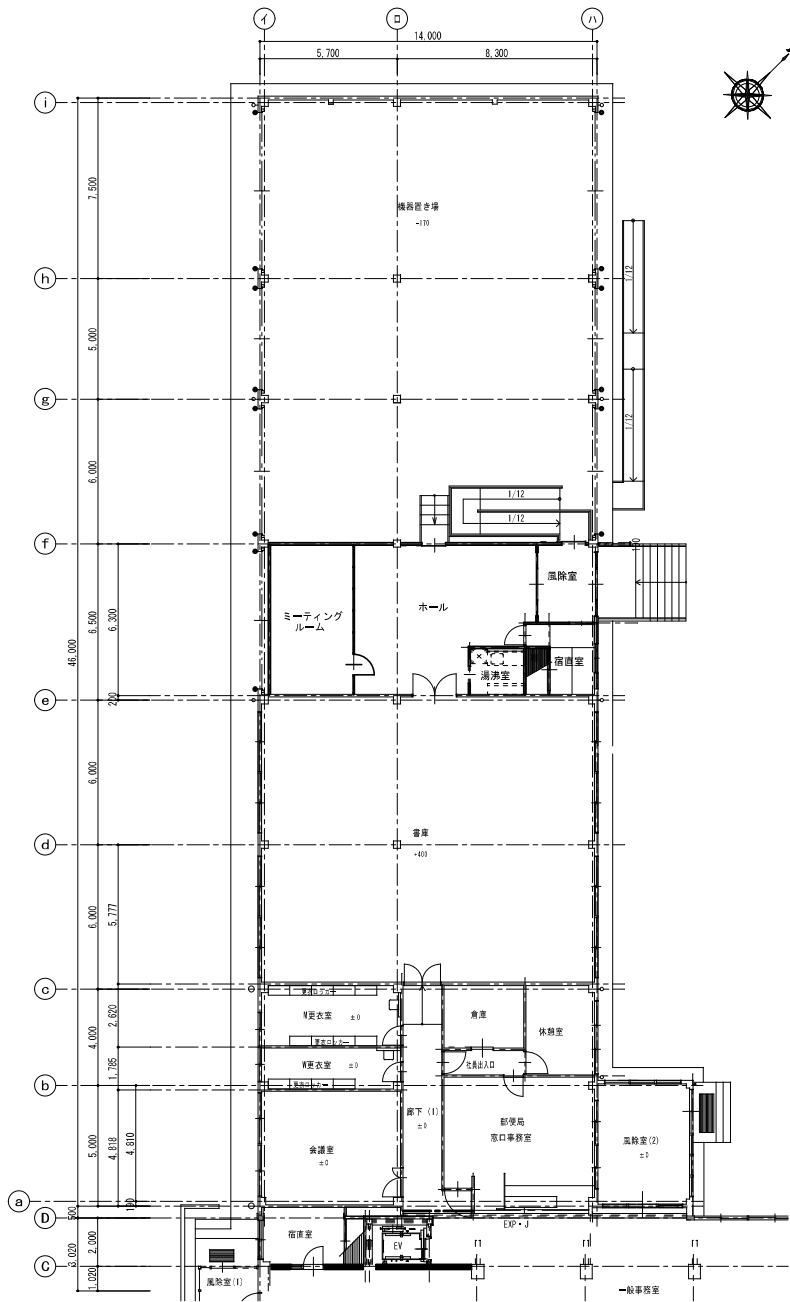
イベントは駅長が企画し、毎月2回程度開催している。11月には北海道展を開催し、盛況であった。

Q：なにか問題点はないか？

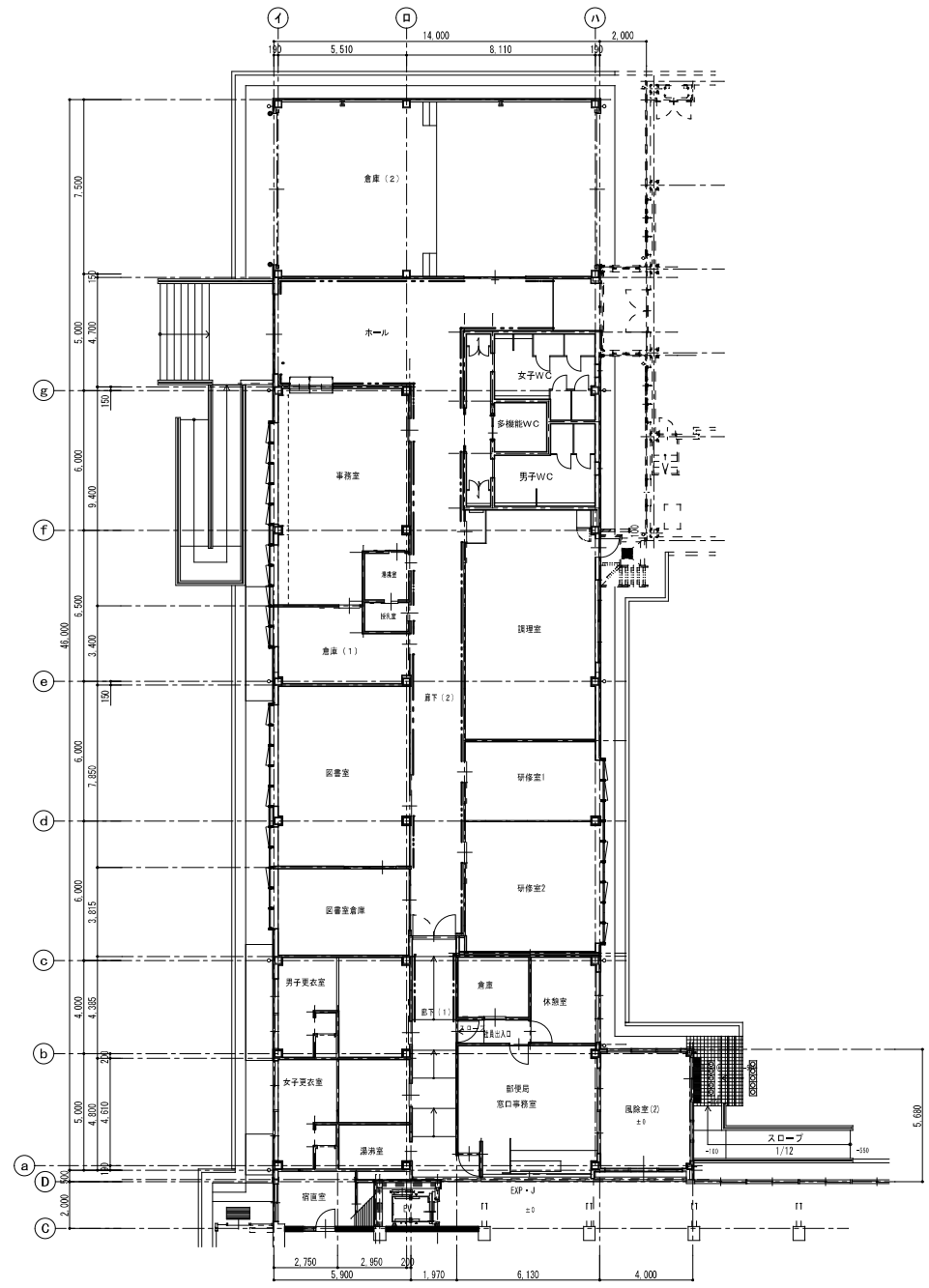
A：夜間は管理者が不在となる。トイレの非常ボタンを押されると、出てこないといけない。また、家庭ごみを捨てて帰る人がいて、困っている。

福部町コミュニティーセンター複合化について

- 1 入札予定 令和2年3月上旬
- 2 工 期 契約日から令和2年11月末まで（9カ月）
- 3 事業概要 支所の増築部分をコミュニティーセンターに改修
多目的ホールの増築（新設）

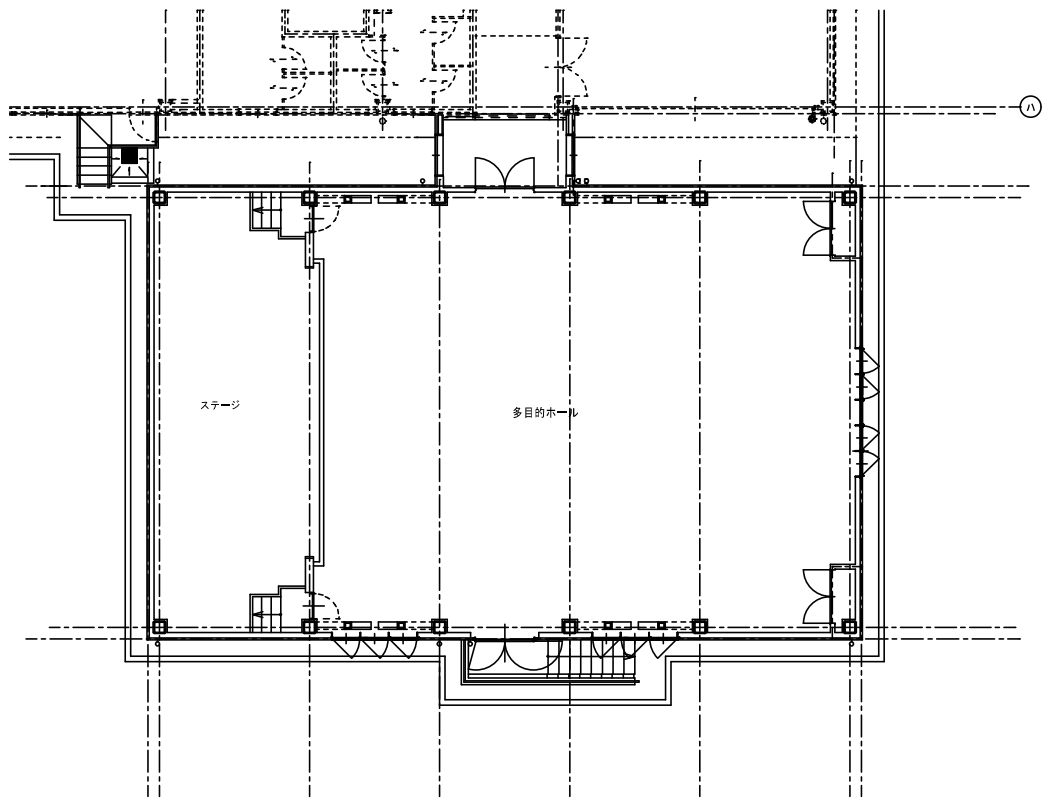


改修前 1階平面図

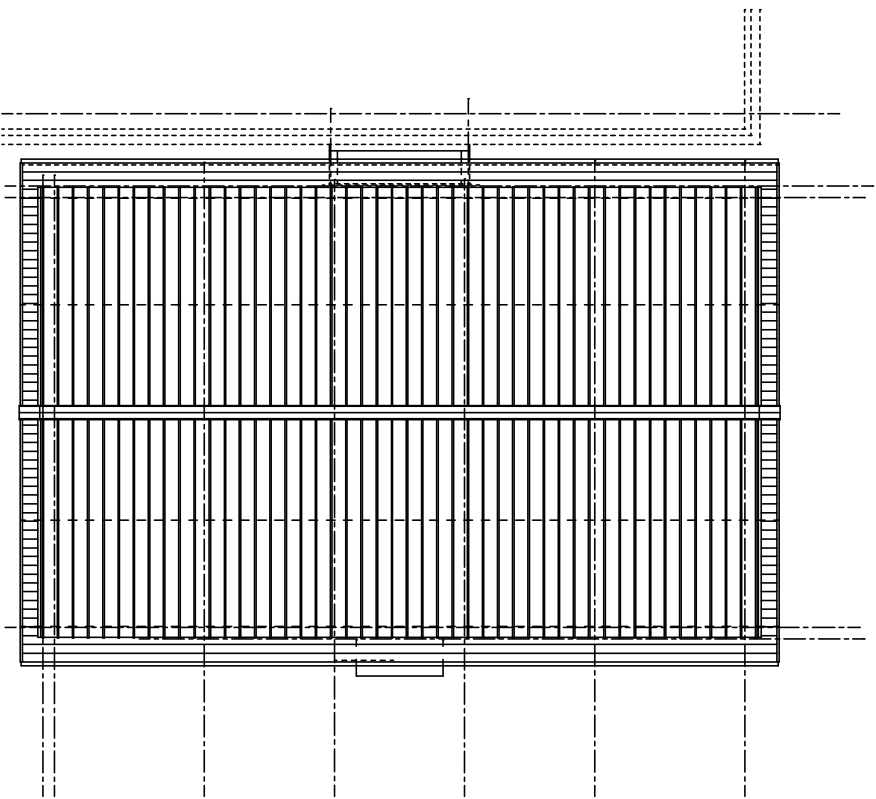


改修後 1階平面図

福部町コミュニティセンター改修（建築）工事	
平面図（改修前・改修後）	



平面図



屋根伏図

福都町多目的ホール増築（建築）工事		
平面図	屋根伏図	

福部町地域内情報伝達設備整備方針状況

R2.1.14現在

町内会名	補助事業区分	自治会世	整備世帯	整備状況	工事完了予定時期	既存有線設備
清内谷		3		整備ない		
左近	有線	30	30	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.1月(1/15)	○
久志羅	有線	27	27	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.3月	○
上野		11		整備しない		
中	告知端末	8	8	各戸に音声告知端末を整備	2020.4月	
蔵見	告知端末	35	34	各戸に音声告知端末を整備	2020.3月	○
南田	告知端末	16	16	各戸に音声告知端末を整備	2019.11月 済	○
栗谷	有線	15	15	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.3月	○
八重原	告知端末	25	24	各戸に音声告知端末を整備	2019.11月 済	
箭溪	有線	27	27	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.3月	○
高江	有線	26	26	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.4月	○
駅前	無線	102	102	地域無線システムを整備	2020.2月	
南海士	告知端末	62	62	各戸に音声告知端末を整備	2020.3月	
浪花団地		55		整備しない		○
砂丘		13		検討中		
浜湯山	告知端末	63	62	各戸に音声告知端末を整備	2020.2月	
山湯山	有線	35	35	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.2月	○
東湯山	告知端末	30	29	各戸に音声告知端末を整備	2020.3月	
海士	告知端末	85	84	各戸に音声告知端末を整備	2020.3月	
細川	告知端末	59	58	各戸に音声告知端末を整備	2020.1月 済	
岩戸	有線	105	105	既存の有線放送設備に音声告知端末を1台接続し放送する	2020.3月	○
計		832	744			

89.4%

別表

情報の分類

(令和元年10月1日現在)

区分	分類	内容	放送担当
一般 放送	行政機関からの情報	鳥取市からのお知らせ	支所
		鳥取市以外の行政機関からの情報	
	その他の情報	地区公民館からの情報イベント等事業のお知らせ	地区公民館
		未来学園のイベント及び事業のお知らせ	未来学園
		農業関係団体からののお知らせ	農業団体等
		鳥取市福部町総合支所地域振興課長が特に認めた情報	支所

※公的機関以外からの放送は、直接各集落へ依頼してください。

【参考】

区分	分類	内容	放送担当
緊急 放送	自然災害に関する情報	地震、津波、大雨などで避難が必要な場合など	防災行政無線の屋外スピーカーから流れます。
	国民保護に関する情報	ミサイル、航空攻撃、テロなど	
	避難に関する情報	避難指示、勧告、準備情報など	
	防犯に関する情報	不審者、受刑者等逃走など	
	行方不明者に関する情報	行方不明者の生命に危険が及ぶおそれがあるもの	
	市民生活に関するもの	断水、停電、危険動物、火災（延焼のおそれがあるとき）など	

福部町におけ情報伝達方法について（令和2年2月1日以降）

○令和2年2月1日より、防災行政無線はアナログ方式からデジタル方式に変わります。

○変更点

- ・現在の個別受信機（アナログ方式）を活用した放送が出来なくなります。
- ・緊急放送は、町内に設置した屋外スピーカーから流れます。
- ・支所、集落からの放送は、音声告知専用端末（NCN）から流れます。

※音声告知専用端末（NCN）からの放送は、設置が完了した集落から順次放送開始します。

○現在の個別受信機（アナログ方式）の回収について

4月以降、各集落の公民館に回収BOXを設置しますので、各家庭で持参していただくこととなります。（日程が決まり次第、連絡させていただきます）

ただし、宅内アンテナが設置してある家庭については、業者がアンテナと個別受信機の撤去を行います。（日程は個別に調整します。）

都道府県	名称	場所	内容	写真	所要時間
兵庫県	ようか但馬蔵	養父市	<p>養父市PFI事業として開業した当駅は、養父市の町並みと調和した『蔵』をイメージして構成。地元農林水産物の販売強化に情報発信機能を付加し、地域を活性化することを目的とした地域振興施設です。農林水産物直売所（野菜蔵）、お食事処、お土産処等の他、利用者にくつろぎを提供する足湯、路線バスや長距離バスのターミナルも併設しています。</p> <p>災害時には避難所、食料備蓄基地として防災拠点の位置付けがなされており、施設内には防災トイレが設置されます。</p> <p>また、県立但馬農業高校との連携により、生徒による生産品の直売・実習の場として活用が図られています。</p>		1:18
京都府	久美浜サンカイカン	京丹後市	<p>世界的にも珍しい地形や地質からなる「山陰海岸ジオパーク」に認定された絶景のなかにあります。山陰海岸国立公園エリアの久美浜湾を眺める場所に位置し、地元の新鮮野菜や果物を「菜〇野果（さわやか）市」で販売。地域食材を生かしたレストランを営業し、売店では「丹後産こしひかり」や特産品などの土産物もそろう道の駅です。</p>		1:34
兵庫県	但馬のまほろば	朝来市	<ul style="list-style-type: none"> 日本のマチュピチュと呼ばれ、観光客が急増（H21年：約2万人→H25年：約50万人）している天空の城「竹田城」や生野銀山等の観光資源の集客力を活かし、道の駅の来訪者のさらなる増加につなげ、産業創出、雇用促進、定住化の担い手として機能を強化 現施設を增強し、大学・研究機関等と連携し新農産品を開発するラボ機能及び空き家情報・就労情報などの定住化情報の発信機能を追加 		1:40

R2年度福部地域振興会議 視察候補（道の駅）

都道府県	名称	場所	内容	写真	所要時間
兵庫県	丹波おばあちゃんの里	丹波市	<ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴若狭自動車道と北近畿豊岡自動車道の結節点として、道路・地域情報の総合的な発信拠点 ・丹波野菜や地場産品の販売促進、地産地消の推進による地域経済活性化 ・氷上回廊でのサイクリングの推進によるサイクリストの拠点化 ・快適、清潔、安全のストレスフリーの施設整備運営 		2:01
兵庫県	とうじょう	加東市	<p>新名神を活用し地域の文化遺産を紹介、空き家情報等の提供、バス会社と提携し高齢化対応</p>		2:02
京都府	丹後王国「食のみやこ」	京丹後市	<p>道の駅内の加工所で農林水産物の加工に取り組んでいる地域や農家民泊の開業を目指している方等を対象にした人材育成等の実施や、地元高校生による高校生レストランを開催し、地元食材を使用したメニューの開発を行う取り組み</p>		2:05
兵庫県	北はりまエコミュージアム	西脇市	<p>播州織など地域資源を活用した多様な体験・交流プログラムを提供し、道の駅を拠点に事業と雇用を創出。</p> <p>駅は、北はりま地域（西脇市、多可町）が広域連携して取り組んでいる「北はりま田園空間博物館（地域まるごと博物館）」の南の玄関口となる総合案内所で、地域の豊かな自然や歴史文化、伝統産業などの有形無形の地域情報を展示・紹介する施設です。</p>		2:07